栽培や農業安全の基礎を学ぶ
環農水研・農業基礎講座

（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所では、大阪府内で小規模就農をめざす方や、就農後間もなく基礎を学び直したい方などを対象に「農業基礎講座」を実施しています。

令和6年度まで農業大学校で行われていた「農業入門講座」の後継となる講座で、令和7年度から同研究所が新たな講座として実施しています。

病害虫防除、野菜・果樹栽培、土壌肥料などを学ぶ「農業園芸セミナー」と、農薬の適正使用や農作業安全を学ぶ「農業安全セミナー」で構成。開催済みの園芸セミナーは動画でも受講でき、所定の要件を満たした方には修了証が発行されます。

また、さらに栽培技術等を深く学びたい場合は、大阪府立農業大学校の短期実践課程などの受講も案内しています。

第2回農業安全セミナーは令和9年2月26日開催予定で、申込締切は1月12日。受講を希望する方は、お早めにお申し込みください。

◆環農水研HP：https://www.knsk-osaka.jp/nourin/seminar/basic_cource.html

（大阪府立環境農林水産総合研究所提供）

大阪農大、11月から願書受付
総合課程・短期実践課程

１００年以上の歴史を有する大阪農大は、「就農したい！」「農業関係の技術者になりたい！」「大阪の農家で働きたい！」を実現する実践重視の学校です。

大阪農大では幅広い視野から農業を考え、技術力と判断力、応用力を身に付けた農業経営者及び農業技術者を育成するため、農業普及指導員や研究員、ベテラン講師陣により科学的かつ実践的な教育を行っています。

また、これまで、約２０００名の卒業生を輩出し、大阪農業の中枢を担う農業経営者や農業技術者として活躍しています。

週５日通学の２年制「総合課程」と社会人向けに週１日の通学で就農に必要な知識と技術を学ぶ１年制「短期実践課程」を設置。Ｗｅｂ授業も導入しており、スマホやタブレット等でいつでも何度でも学べます。

総合課程一般入学試験及び短期実践課程選考試験の願書受付期間は令和８年11月９日（月）～11月24日（火）。

◆大阪農大HP：https://www.knsk-osaka.jp/noudai/

（大阪府立農業大学校提供）

天気のおっちゃんのコラム

第三十二回
「千葉豪雨その1」

気象予報士、元普及指導員
森田　彰朗

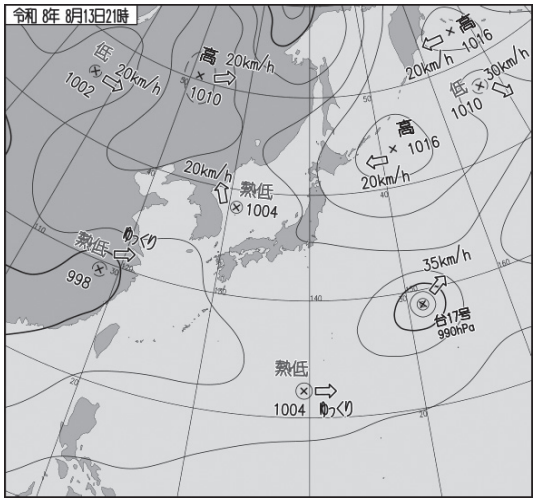


都市型大雨災害の恐ろしさ

８月13日～14日にかけて、大雨が千葉県北中部を襲いました。多数の車が水の引いた路上に放置されている異様な映像をご覧になった方も多いでしょう。都市部の豪雨という点では、大阪も他人事ではないので、２回にわたって解説します。

天気図では読めない今回の豪雨

下図は、千葉市などで大雨特別警報が発表された８月13日夜の天気図です。この連載をお読みの皆さまは、「台風はどこだ？前線は？」と思われるでしょう。この天気図には台風はありません。



が遠い位置ですし、前線は見当たりません。何の説明もなくこの天気図を見せられ、千葉の天気を聞かれても、私は「災害級の雨」とは答えられません。

ところが実際には、一時間最大１１５㍉、24時間では３６７㍉という、いずれも千葉市での観測史上最大値を記録する豪雨となりました。

天気図で読めないこの雨はどのように発生したのでしょう。

「新型」の線状降水帯か？

気象庁の発表によれば、東海上からの暖湿気と関東平野の冷気が千葉付近でぶつかって、積乱雲が次々でき、それが長時間停滞して線状降水帯になったと説明しており、「スコールライン型」という珍しい形であったとしています。詳しい説明は省きますが、積乱雲のでき方は「ゲリラ豪雨」と似ており、関東に特有の現象ではないでしょう。

次号では千葉豪雨で多発した浸水被害について考察します。

ワンポイント農業気象（11月）

中山間部での早霜
気温急変による体調不良